

令和6年

1月号

No.651



日蓮宗

法音寺



今月のご法話

杉山先生と堪忍の話

悦可衆心

よい教えを伝えよう
おし った

今日一日、

人に感謝しましょう

今日一日、

人に親切にしましょう

今日一日、

人を善に導きましょう

月刊・法音 令和6年1月号 No.651 目次

【信仰の指針】有力うりき 堪忍のできる人が真の徳の人です 3

新年のご挨拶 鈴木正修 4

「悦可衆心」のころ 鈴木修徳 8

【朝のこない夜はない】

杉山先生と堪忍の話 山首 鈴木正修 12

〔年賀〕

◆仏教漫画『日蓮さま』・②雨乞い 33

◆雨乞い 41

◆お寺の本棚 42

◆常寂光土への誘い (18) 44

◆季刊誌ひなた 47

◆のりのね体験 48

◆支院だより 50

◆福祉のひろば 69

○幸せのお手伝い 70

○昭徳会・第16回 福祉実践発表会 日本福祉大学で開催 72

○日本福祉符属寧寧学校・和太鼓部 演奏が真実会優秀賞 函大会に出場します！ 74

◆幸せの種まき／編集後記 76

◆連載まんが・ひまわり・132 優しい言葉 77

◆令和6年・法音寺年間行事のご案内

掲載写真 表紙・扉 12頁、29頁裏表紙…梅田雅臣氏撮影

信仰の指針…加納将人氏撮影

世よの人ひとよ 幸さちをねがわば 人ひとにまづ
めぐみて幸さちの たねをまかなむ

『御開山上人御詠』
ごかいさんしょうにんごうよえい



万両



信仰の
指針

有力 う
り
き

堪忍のできる人が

まこと
真の徳の人です

日教五



新年のご挨拶

鈴木正修 五

令和6年甲辰正月を迎え、皆さまに心より新春のお慶びを申し上げます。

昔から「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」と言います。何事も初めの計画や決心が大事であるということなのです。

とは言え、私達の常、どうしても怠け心が起こって、途中で頓挫してしまふことが多いものです。それを戒めて『武士道』の著者として有名な新渡戸稲造博士は『修養』の中で「何事でも継続するについてはすこぶる困難がある。しかし、人が大事を成すと否とは、一に懸ってこの継続にあるのだから、いかなる困難を排しても、継続心を修養しなければならぬ」と言われています。その一方、新渡戸博士は「継続心を修養するのに、ことさらに偉いことやむずかしいことを選んで発心をする必要はない」と言われます。例えば、毎日日記をつけるとか、早起きをする、また決まった日に両親や先祖の墓参りをする、というようなことを繰り返して続ける。これが習慣となり、遂には一事に達したものが万事に応用

されると言われるのです。

私達に置き換えて、三徳のみ教えをもとに、今日一日愚痴を言わない。今日一日会う人に笑顔で接する。今日一日人にやさしい言葉をかける。等の誓いをしてはどうでしょうか。

ノーベル平和賞受賞者のマザー・テレサが言われています。

私達は、大きなことはできません。小さなことを大きな愛をもって行うだけです」

「平和は微笑みから始まります」

江戸時代後期の農政家、二宮尊徳が言っています。

「大事をなさんと欲せば、小さなことを、怠らず勤むべし。小積もり

て大だいとなればなり。凡およそ小人しょうじんの常つね、大だいなることを欲ほつして、小しょうなることを怠おたり、出来難できがたきことを憂うれひて、出来易できやすきことを勤つとめず。夫それゆえ、終ついに大だいなることあたはず。夫それ大だいは小しょうの積つんで大だいなることを知らぬ故ゆえなり」

これが、かの有名ゆうめいな『積小為大せきしょういだい』の教おしえです。小しょう事を軽かろんぜず、小しょう事じの積つみ重ねの偉大いだいさを思おもうべきです。功徳くどくも同おなじです。小ちいさな功徳くどくの積つみ重ねが、やがて大おおいなる幸福こうふくへとつながっていくのです。

どうぞ、三徳さんとく実行じつこうの継けい続ぞくをよろしく願ねがいいたします。
皆みなさまの本年ほんねんのご多幸たこうを衷心ちゅうしんよりお祈いのり申もうし上げます。

「悦可衆心」のこころ

鈴木修徳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、本山では4年振りに境内バザーが行われました。準備には山首上人さまも加勢され、テントがいくつも張られました。名古屋地区各支部・班の方々が作られた温かいうどんやぜんざいは、久し振りということもあってか格別おいしくいただきました。

さて、令和6年は山首上人さまより「悦可衆心」という御法推進目標をいただいております。

舍利弗よ、如来は種々に分別して功みにいろいろな法をお説きになる。その言葉は柔軟である。そして皆の心に悦びの心持ちを起させる。

(『妙法蓮華経略義』第二章 方便品 67頁)

「悦可衆心」を思い起こさせるエピソードが施本『安立行(上)』にあります。法音寺の始祖・杉山辰子先生が、家出を繰り返していた甥(七郎・当時12〜13歳)に教化した場面です。

「おばさん、おれだってつらかったんだ」

「わかってるよ。起きたことは仕方がないけど、二度と繰り返さないようにして、その悪因を消すように今からたくさん善い種まきをすればいいんだよ」

七郎は心配そうにたつ。(※杉山先生)の顔を見ながら聞いた。

「佐野の家（※杉山先生の姉の家）に帰らないかね？」

・たつが首を横にふるのを見て、七郎の顔はパツと明るくなった。

「おれ、働くことはきらいじゃないよ」

「そうかい、それじゃあ臥竜山で野良仕事を手伝ってもらおうかね。杉

山のおばあちゃんもだいぶ年をとってきたから助けてあげてほしいんだ

よ。佐野の家にはおばさんから話をしておくから」

「よし、善い種まきをいっぱいせんとな。頑張るぞ」

（『安立行（上）』197頁）

行き場のない少年にとっては、杉山先生の言葉でどんなに救われたこ

とだろうと思います。

また御開山上人は、「悦可衆心」の実行はむずかしいことではなく、

人のために「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えることである」と教えて

くださっています。

「お題目を唱えていきますと、邪念が消えてよい心持ちとなります。身体
の痛い時、苦しい時唱えますと、きつと身体が楽になります。悲しい時、
苦しい時には理屈なしに唱えましょう。また、人にも唱えてあげましょ
う。法座の時でも、お題目会の時でも、心の苦しい人、痛い所のある人
にはお題目を唱えてあげましょう」

（『御開山上人御遺稿集』24頁）

自分のためにお題目を唱えてくれる人がいるというのは本当に嬉しい
ものだと思います。人のため、自分のためにお題目を唱え、皆さま方の
心に喜びの心持ちを起こしていただけるよう精進してまいりたいと思
います。

本年が皆さまにとって幸多き年でありますようお願い申し上げます。

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



すぎやませんせい 杉山先生と堪忍の話

昨年さくねんの11月3日がつに、御法推進全国大会ごほうすいしんぜんこくたいかいがリモートで開催かいされました。これは、杉山先生すぎやませんせい伝来でんらいの三徳さんとくのみ教えおしをみんないっしょうけんめいで一生懸命じっこう実行じっこうし、弘ひろめて行いこうこうという決起けつき集会しゅうかいです。

杉山先生すぎやませんせいが明治42年めいじに仏教感化救済会ぶつぎょうかんかきゅうさいかいを創立そうりつされてから、本年ほんねんは116年ねんめ目に当あたります。杉山先生すぎやませんせいは開教当初かいきょうとうしよに『世界の鑑せかいのかん』という施本せほんを作つくられました。それを当時とうじの信者しんじやさん達たちが買かって、街頭がいとうで配くばられました。3センチぐらいの厚みあつの文庫本ぶんこほんサイズのもです。『世界の鑑せかいのかん』という題名だいめいは、三徳さんとくのみ教えおしを国民一人ひとりこくみんひとりが実行じっこうし、行住坐臥ぎょうじゅうざがお題目だいもくを唱となえて日本にほんがすばらしい国くにとなり、世界せかいの国々くにの鏡かがみ、即ち模範なまわとなるようにごといいう杉山先生すぎやませんせいの願ねがいが込こめられていました。



アサヒビールの社長、会長やNHKの会長等を歴任された福地茂雄さんが言っておられます。

「私の書棚にはその内にゆっくり読もうと思っっている積読の本がたくさんある。森信三氏の『修身教授録』には、『書物というものはただ撫でるだけでもよい。それだけでその本に縁ができるからだ』とある。私の積読を認めてくださる一説だ」

「全一学」を提唱した哲学者、森信三さんも杉山先生と同じことを言っているのです。

実業家の執行草舟さんは、何万冊も本を読まれたという方ですが、執行さんは「本は読むのが一番いいが、良質の本は買って並べておくだけで精神が知的になる。本から波動が来るからだ。積読は100点ではないが80点くらいの価値はある」と言っています。

極めつきは、書評家の永田希さんです。その著書、『積読こそが完全な読書術である』の中で「読んでいな



い後ろめたさなど捨てよう。真の読書家は積読家である。さあ、本を積もう」と言っています。私も積読が多いので、心が楽になります。

さて、「『世界の鑑』に触れるだけで縁ができる」という話ですが、現在の愛知県江南市で、当時『世界の鑑』を名古屋でもらわれた方がありました。その方が私にはむずかしいが、近所に住む鈴木芳蔵さんなら、法華經の勉強を熱心に行っているということだから、きつとあげたら喜ばれるだろうと思われ、芳蔵さんに『世界の鑑』を渡されたのです。芳蔵さんというのは、御開山上人の叔父さまで、後の鈴木慈学上人です。芳蔵さんはすぐに内容を理解し、これはすばらしい。この本を発行している人にぜひ会いたい、と、すぐに巻末の住所をたよりに名古屋の仏教感化救済会本部を訪れたのです。その時、杉山先生は芳蔵さんに言われました。「あなたは『仏教を知っている。法華經を知っている』



と言われるけれども、それは世界地図を見て『世界を知っている』と言っているのと一緒です。例えば貿易でもやろうとしたら、地図だけでは何もできないでしょう。だから法華経を知っていると、その実行ができませんよ」

「芳蔵さんは杉山先生の話聞いて感激し、すぐに甥の修一郎さん（後の御開山上人）にその話をしたのです。修一郎さんは当時、人生に悩んでいました。商売に成功して、茶道や華道を嗜んだり、琵琶を習ったり、ドイツ製の自転車に乗られたりしていたのですが、心が満足しませんでした。」

「人生とは一体何だろう。本当の幸福とはどういうものだろう」と悩んでいました。それを知っていた芳蔵さんは、「修一郎さん、一度名古屋の杉山辰子という女性に会おうといよ。今の悩みがすべて氷解するよ」と勧められ、修一郎さんは杉山先生に会いに行かれました。その



時の修一郎さんと杉山先生の会話が『日本の福祉を築いたお坊さん』という本に載っています。

杉山先生はいきなり言われました。

「あなたは自分の正体がわかっていますか。あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」

「私の役割とは何でしょう。私は人生の意味を求めています。どうしたら本当の幸せになれるのか、日々考えています」

「あなたのような立派な魂を持った人は、それ相應の生き方をしなければなりません。あなたに課せられた役割とは、自分自身で追々気がついていくことでしょう」

「その役割に気がつくとき、幸せになれるのでしょうか」

「幸せになりたければ、幸せの種をまくことが必要です。米も野菜も種をまかなければ、収穫することはできません。幸せの種さえまけば、人は本当の幸せになれるのです」



「幸せの種とは何のことでしようか」

「幸せの種とは、法華經の教えを実行することです」

「法華經の実行とは一体どういうものでしようか」

「第一に行住坐臥と言って、道を行く時も寝ている時も、

とにかく何をしている時にも、『南無妙法蓮華經』とお

題目を唱えるのです。そして、親のない子、病気で苦し

む子、生活に困っている不幸な人々を助け、幸せに導く

のです。不孝な人々の手助けをすることこそ、幸せの種

まきにほかなりません。あなたが求める幸せは、法華經

を実行し、人々を幸せにすることによってのみ得ること

ができるのです」

大正13年、杉山先生58歳、修一郎さん23歳の出会いで

した。それから間もなく修一郎さんは信仰生活に入り、

生の松原でのハンセン病患者の救済に始まり、孤児、貧

児、障がい児の養育をする人生へと続いていくのです。

そして戦後、現在の法音寺を開山し、昭徳会を創設し、



日本福祉大学を創立されるのです。これらがすべて、一冊の『世界の鑑』から始まったわけです。『世界の鑑』を江南市寄木の誰かが手に取ったところから始まったのです。

以前、この話を法話でしたところ、西支部の支部長を長くつとめられた春日井昌行さんが私のところに来られて、「うちもそうなんですよ。父が鶴舞公園で『世界の鑑』を受け取って、そこから信仰が始まったんですよ」と言われていました。

杉山先生は教化の初めには必ず「堪忍」ということを言われたそうです。当時の信者さんの体験談を読みますと、やはり堪忍の話がとても多いです。慈学上人も御開山上人も堪忍から実行されたそうです。どうして堪忍が大事かと言いますと、私達を苦しめる三毒というものがあります。「貪・瞋・痴」です。「貪」とは貪りです。



欲望のままに生きることです。「瞋」とは感情のままに怒ることです。「痴」とは無知で迷い惑うということですが。これらを抑えるのが堪忍です。お釈迦さまは、この中で、殊に怒りは一番の害悪であると言っておられます。怒ることによって人間は体も壊れますし、何より徳が燃え尽くされ、すべてをなくしてしまふのです。怒りほど恐ろしいものはないのです。それを防ぐのが堪忍です。

昔からよく読まれていた健康法の本『養生訓』を書いた貝原益軒という人がいます。この益軒が『養生訓』の中で「七情」というものがあると言っています。「七情」とは七種類の感情のことで、「喜・怒・哀・楽・愛・悪・欲」です。この内の怒と欲、怒というのは瞋で、欲というのは貪です。この二つが最も徳を傷つけ、人生を損なうと言っています。また、「怒りを抑え、欲を我慢す



るのは易经でも戒めている。怒りは陽に属し、火が燃えるようである。人の心を乱し、元気を損なうのは怒りである。抑えて忍ばないといけない。欲は陰に属し、水が深いようなものである。人の心を溺れさせ、元気を減らすのは欲である。心して防がなければならぬ」と言っています。怒りは火事、欲は底なし沼のようなものということだと思えます。

続けて、喜と楽について言っています。

「喜びと楽しみを激しく表すのはよくない。内なる気が使いすぎて減る。また哀についても、孤独で憂い悲しみが多いと、気が流れないで塞がる。減るのと塞がるのはどちらも元気の害となって人間が弱る」と言っています。結論として益軒は「心を平らにし、気を和らかにし、言葉を少なくして静かにする。これが徳を養い、身を養うことになる」と言っています。



お釈迦さまの教えに『大吉祥経』があります。「大なる幸福の教え」です。ある時、一人の立派な人物が祇園精舎にやってきて、お釈迦さまに願い出ます。

「世の人々はみな幸福を願っています。どうしたら最上の幸福を手に入れることができるか、それをお教えください」

それに対してお釈迦さまは「十一の偈文」を説かれます。それが実にわかりやすいものなのです。いくつか紹介します。

「愚かなる者に親しみ近づかぬがよい。賢き人々に近づき親しむがよい」

「常に功德を積もうと思うがよい。また正しき誓いを立てるがよい」

「規律ある生活を習うがよい。良き言葉に馴染むがよい」
「よく父母に仕えるがよい。妻や子を慈しむがよい。正しき仕事に励むがよい」



「布施をなし、戒律をたもち、血縁の人々を恵み助け、
恥すべきことを行わないのがよい」

そして結びにお釈迦さまは、これらの実行を続けてい
けば、どんなことにも心乱されることなく、愁いもなく
怒りもない、この上のない安穩な境地に至り、どこにい
ても最上の幸福を享受できると言われています。

益軒の話もそうですが、心の制御が正しくできる人が
幸福者ということになるのです。その意味で杉山先生の
言われた、「まず一日の堪忍」となると思います。

最後に杉山先生時代の信者さんの堪忍の体験談を紹介
します。

近藤英二郎さんという方の体験談です。この方は昭和
6年5月に奥さんに伴われて、初めて杉山先生に会われ
たそうです。すると先生がいきなり言われました。

「あなたは良い魂を持ちながら、かわいそうに、今まで



何もお知りにならずに暮らしてこられましたね。あなたは、今ここで悟ってもらわなければなりません。それはどういうことかと申しますと、この娑婆に生まれてきたのは、功德を積んで悪い因縁を取り去り、お父さんやお母さんの後世の難儀を救うためであります。うかうか暮らしておられると、あなたは災難に遭って苦しまねばならぬことも来ます。何はともあれ、災難が来ても大難は小難、あるいは無難であれば大事な命も助かります。そのためにはまず堪忍をしてください」

それから後、11月頃にまた杉山先生にお会いすると先生が言われました。

「あなたは来年の2月頃、片腕を折られるという悪い因果がありますので、一生懸命に堪忍をして、妙法を唱えてください」

この方は、東洋紡の女子工員の監督をしておられました。後に近藤さんは言いました。



「災害に遭ってはならん」と考えて、一生懸命堪忍をすることにしました。堪忍という二字を紙に書いて、それをポケットに入れて、絶えずそれを見て、また妙法を唱えて工場内を回っていました。すると不思議にも皆の者が大変成績良く働いてくれるようになりました。叱つて回るよりも、堪忍して妙法を唱えつつ回った方が、成績が良いのは不思議でありました。ちょうど2月11日の出来事でした。モーターに故障が起きたので、止めて直せば良いのですが、止めもせず、ちよつと直してやろうと思つて手をかけたのが誤りでした。手をかけるや否や、あつという間もなく手の指がリユーズに食われてしまいました。思わず『妙法蓮華経』と言つて手を引きましたが、既に親指は爪から先が潰れていました。真つ赤な血が流れていました。付近にいた者がわいわい騒ぎました。はつと思ひ出したのが杉山先生の予言です。そうだ。これが大難を小難で受けたということだ。あ



りがたいぐと思いました。早速、先生にお礼を申し上げ
て来ようという気になり、傷口をハンカチでくるんで先
生のもとへ駆けつけました。先生は『そうか、そうか』
と言われて、怪我をした指に口を当てて『妙法蓮華經、
妙法蓮華經』と唱えかけてくださいました。そうして絆
創膏を巻いて、『これが自然にとれるまでとってはなら
んよ』と言われました。不思議にもズキンズキンと痛か
ったのもピタリと止まりました。そこで先生は『このよう
なことになるのは、あなたの今から9年前の正月の心遣
いですよ。思い出せますか』と言われました。思い起こ
せば、それはちょうど9年前、私が愛媛県の工場にいた
時のことです。同僚の坂井という者が始終私と意見が対
立して、彼のことが嫌で仕方がありませんでした。正月
のことです。その坂井がシャフトに巻き込まれて片腕を
折られたのです。その時に、いい気味だぐと思つて、赤
飯を炊いて祝つて、お酒を飲んだのです。当然、見舞い



にも行ってやりませんでした。何という心遣いでしよう。全く鬼か畜生の心遣いです。修養がないとは申しながら、他人の不幸を喜ぶという全く浅ましい心遣いをいたしました。恐れ入って、先生にお話ししますと、先生は『あなたはこのから妙法によって生きて行かれれば、そういう悪い心遣いをした因果も消滅しますよ。喜んでください』と申されました。その時は何だか、うれいような、ありがたいような気がしました。その指は二週間ぐらいで、絆創膏がスツと取れました。指は元通りに治っていました。実にありがたいことと感謝しております」

この体験談は杉山先生の三世を見通す神通力のすごさと同時に、堪忍がいかに大事かということをお知らせされる話です。堪忍をすることによって過去の罪障が消滅されて、受けるべき大難が小難となり小難が無難になるのです。そしてまた堪忍し、功德を積むことによって、今日以降の未来がどんどん明るく開けていくのです。



謹賀新年

日蓮宗

法音寺

よい教えを伝えよう

今日一日、

人に感謝しましょう

今日一日、

人に親切にしましょう

今日一日、

人を善に導きましょう

令和六年元旦



内局委員会
評議員会



進師法縁法音会
檀信徒代表者会
全国信教師会

講話日・毎月七日・十七日・二十七日

日蓮宗
大乘山 **法音寺**

講話日：毎月7日・17日・27日〔午後1時30分〕

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3
TEL. 052-831-7135 FAX. 052-831-9801

支院名・主管者(担任)名	住 所・TEL	毎月の講話日
大阪支院 古山昭顕 <small>ふるやま しょうけん</small>	大阪府大阪市此花区西九条3-4-41 〒554-0012 ☎(06)6465-5051	第2日曜日 23日
福井布教所 古山昭顕 <small>ふるやま しょうけん</small>	福井県あわら市春宮3-28-2 〒919-0632 ☎(0776)73-5234	3/14・7/19 ・9/5
和泉支院 上田智淳 <small>うえだ ちじゅん</small>	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404 〒598-0091 ☎(072)466-3112	第1日曜日 14日・22日
神戸支院 田中常行 <small>たなか じょうぎょう</small>	兵庫県神戸市兵庫区五宮19-17 〒652-0007 ☎(078)360-4884	第2土曜日 21日
淡路支院 田中常行 <small>たなか じょうぎょう</small>	兵庫県南あわじ市神代国衙910 〒656-0455 ☎(0799)42-0175	5・15・25日
岡山支院 梅田浄顕 <small>うめだ じょうけん</small>	岡山県岡山市南区若葉町1-16 〒702-8047 ☎(086)262-0818	第1日曜日 7日・23日
高知布教所 山本まさ子 <small>やまもと まさこ</small>	高知県高知市上町5-5-39 〒780-0901 ☎(088)823-1983	12日
福山支院 宮崎良祐 <small>みやざき りょうゆう</small>	広島県福山市西町3-19-5 〒720-0067 ☎(084)921-3078	第1日曜日 第3日曜日
三原支院 森野智広 <small>もり の ちこう</small>	広島県三原市皆実2-9-22 〒723-0052 ☎(0848)62-5087	第2土曜日 第4日曜日
安芸津支院 大本信行 <small>おほもと しのぶ</small>	広島県東広島市安芸津町三津3765-3 〒739-2402 ☎(0846)45-4012	第1土曜日 第4日曜日
坂支院 三宅善祐 <small>みやけ ぜんゆう</small>	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 〒731-4313 ☎(082)885-1064	第1、又は 第2日曜日
福岡支院 大庭持念 <small>おおば じねん</small>	福岡県福岡市早良区城西2-11-37 〒814-0003 ☎(092)821-7975	第1日曜日 第3日曜日 15日
壱岐布教所 三好敏博 <small>みや よしひろ</small>	長崎県壱岐市石田町池田東触1112 〒811-5221 ☎(0920)44-5445	13日・23日
筑後布教所 蒲池厚 <small>かま ちあつ</small>	福岡県筑後市大字西牟田5954-1 〒833-0053 ☎(0942)53-7273	第2日曜日 第4日曜日
天草布教所 吉屋かおる <small>よしや かおる</small>	熊本県上天草市大矢野町維和1502-1 〒869-3604 ☎(0964)58-0742	1日
田川支院 手嶋敬徳 <small>てしま けいとく</small>	福岡県田川市春日町7-30 〒826-0026 ☎(0947)42-1819	第2日曜日 第4日曜日
名古屋地区 前原祐学 <small>まえはら ゆうがく</small>	愛知県名古屋市昭和区駒方町3-3 〒466-0832 ☎(052)831-7135	7・17・27日
瀬戸布教所 高原吉一 <small>たかはら よしかず</small>	愛知県瀬戸市東本町2-20 〒489-0816 ☎(0561)85-6860	9・19・29日
亀岡布教所 田中節江 田中悠子 山藤明江 嶋崎福美子	京都府亀岡市篠町篠牧田73-1 〒621-0826 ☎(0771)25-7807	第2月曜日 第4日曜日

※講話日は行事によって変更になる場合があります。

謹賀新年

支院名・主管者(担任)名	住 所・T E L	毎月の講話日
大乗山 泰明寺 すずき きしゅう とく 鈴 木 修 徳	愛知県名古屋市中村区名駅2-37-3 〒450-0002 ☎(052)581-2069	5日・20日
開 基 堂 たかなみ じ せい 高 浪 慈 成	愛知県江南市寄木町天道18 〒483-8184 ☎(0587)53-5436	10日
東 京 支 院 いの はら ぜん しょう 猪 原 善 昭	東京都練馬区谷原2-6-37 〒177-0032 ☎(03)3904-1251	第1日曜日 15日 第4土曜日
静 岡 支 院 おお ぼ えん しょう 大 庭 圓 昭	静岡県磐田市城之崎4-7-3 〒438-0084 ☎(0538)32-6625	2・12・22日
豊 川 支 院 み やけ ぜん ゆう 三 宅 善 祐	愛知県豊川市中野川町1-26-3 〒442-0885 ☎(0533)86-4704	4日・20日
安 城 支 院 しま だ ち しょう 島 田 知 教	愛知県安城市新田町小山31-25 〒446-0061 ☎(0566)76-2504	第1、又は、 第2日曜日 18日・28日
明 川 支 院 もう り きょう とく 毛 利 行 徳	愛知県豊田市明川町堂ノ脇1-2 〒444-2601 ☎ご連絡は本山寺務局へ	11日 第4土曜日
佐 屋 支 院 むら かみ ぜん りゅう 村 上 善 立	愛知県愛西市大井町浦田面296 〒496-0921 ☎(0567)32-1825	4日 第2日曜日 24日
一 宮 支 院 こう むら じゅう おん 香 村 浄 音	愛知県一宮市大江1-7-4 〒491-0851 ☎(0586)72-7208	5・15・25日
西 春 支 院 わた なべ えい かく 渡 辺 英 寛	愛知県北名古屋市区九之坪東ノ川20 〒481-0041 ☎(0568)22-5813	2・12・22日
岐 阜 支 院 まえ はら じゅん とく 前 原 順 徳	岐阜県岐阜市切通7-15-22 〒500-8237 ☎(058)245-2939	4・14・24日
笠 松 布 教 所 いわ た ま さ き 岩 田 正 揮	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23 〒501-6042 ☎(058)388-2740	12日
大 垣 支 院 こう むら じゅう おん 香 村 浄 音	岐阜県大垣市宝和町5 〒503-0972 ☎(0584)78-4854	1・11・21日
関 支 院 よし はし けん りゅう 吉 橋 顕 良	岐阜県関市西福野町2-15-11 〒501-3244 ☎(0575)22-0776	3・13・23日
平 賀 支 院 ご とう ぜん こう 後 藤 善 晃	岐阜県関市市平賀213-2 〒501-3822 ☎(0575)23-3771	5・15・25日
郡 上 八 幡 支 院 わた なべ ぎ しょう 渡 辺 義 彰	岐阜県郡上市八幡町小野721-3 〒501-4221 ☎(0575)65-3933	8日・22日
四 日 市 支 院 そ ぶ え ずい ほう 祖 父 江 瑞 法	三重県四日市市赤堀2-4-7 〒510-0826 ☎(059)352-3633	3・13・22日
上 野 支 院 はし もと どう ねん 橋 本 道 念	三重県伊賀市上野向島町3475 〒518-0875 ☎(0595)21-0127	1・11・21日
京 都 支 院 あん どう じゅん ほう 安 藤 順 法	京都府京都市上京区北横町360 〒602-0818 ☎(075)231-3437	1・9・20日
高 槻 支 院 いわ た こう かく 岩 田 孝 学	大阪府高槻市天神町1-9-2 〒569-1117 ☎(072)685-1003	第1日曜日 11日・21日

謹んで新春の お慶びを申し上げます

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス高浜安立
ケアハウス湯山安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮
かりん

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学附属高等学校

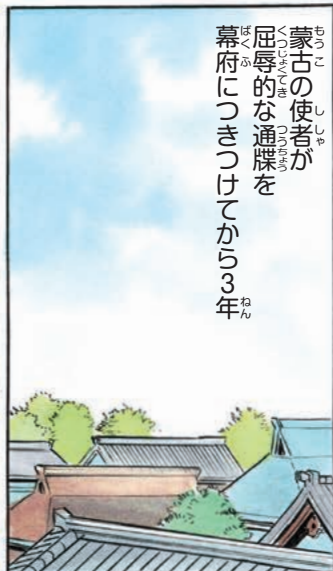
法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>

に ち れ ん
日蓮さま

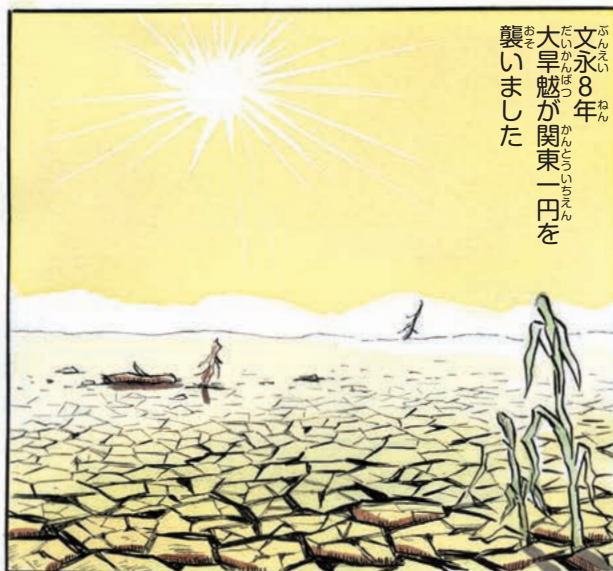
21 あまごい 雨乞い



ちろこ
蒙古の使者が
屈辱的な通牒を
幕府につぎつけてから3年



ぶんえい
文永8年
だいかんぼつ
大旱魃が関東一円を
襲いました



しつげん
北条時宗の館

のう 良観よ
この春から雨が
降らず大旱魃で
民百姓はもはや
生気を失つておる



そこでそなたに
雨乞いの祈禱を
頼みたいのだが

しつげん
北条時宗





承知いたしました
私が速やかに
加持祈禱を行い
民の安楽のために
必ず雨を降らせて
ご覧にいれましょ

極楽寺良観

そっか
受けてくれるか
頼りにして
おるぞ



良観は戒律と祈禱の
第一人者とされていた
真言律宗の僧侶です

橋をかけ
路を開くなど
整備事業を
行ったことで
幕府の信頼も厚く
庶民からは聖者のように
慕われていました

しかし日蓮聖人を人一倍
憎んだ生涯の大法敵だった
僧侶はこの良観でした



日朗 今書き終わる
書状を届けてくれぬか

はい



良観殿が
幕府からの雨乞いの
祈禱を引き受けた
とのこと…

ああ 聞き
およんでおる



松葉ヶ谷 草庵

お師匠さま

良親房殿

あなたは6月18日から

雨乞いをされるようだが

あなたの念仏と私が

唱える妙法どちらが

勝れているかはつきりさせましょう

もし今日から七日の間に

雨が降れば私は題目を捨てて

あなたの弟子となり

念仏を唱えましょう

しかし七日の間に雨が

降らなければお気の毒ですが

私の弟子になりませんか

これは私に向けた
挑戦状といふことが

七日の間に

雨を降らせ

その高慢な鼻を

へし折って弟子にし

念仏を唱えさせて

くれよう



南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

見ろよあの
坊さんの数...

120人も
いるんだつてよ



良親さまにとっちゃ
負けられないからだろ

今日が約束の七日目だけど
まだ一滴も雨が降らねえな

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

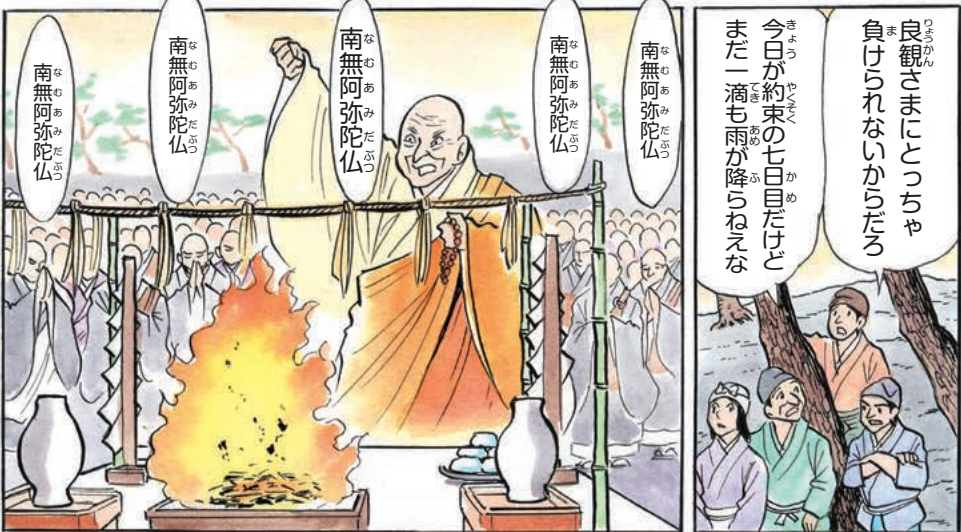
南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏





あと七日…
もう雨は降る
あと七日祈れば
必ず…

良観さまが
七日間延長
したんだと！

おいおい
また坊さんの数が
増えたぞ

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

みんな必死に念仏を
唱えているけど
雨は降りそうにないな

見る
真つ黒な雲だ

雨が降り
そうだ

でも…
なんか
おかしいぞ

なんか
熱い風が
吹いてきた



なんだ
この熱風は？

こりや砂風だ！
逃げる

やはり良観さまの
ご利益だ



きゃあ

早く
逃げる

あちち…

うわっ
こりや
たまらん



良親殿いかがでしょう
念仏を唱えて祈っても
雨は降らない
そればかりか砂嵐が
吹いたのですよ
あなたは戒律をたもつ
徳の高い僧侶と
謳われていますが
わずかな雨すら
降らすことが
できないとは
どういうことでしょう
この結果を受け入れ
私 日蓮の弟子となれば
雨を降らす法と成仏の道をお
教えしましょう

日蓮



無念だ…



日蓮め
恥をかかせおつて
覚えておれ…
必ず復讐してくれるわ



今度は日蓮さまが
雨乞いの祈禱を
されるそうだとぞ

良親さまでも
だめだったのに
雨は降るのか
ついて行って
みようかね

田辺ケ池

お師匠さま
ここで祈禱を
するのですか

その通りだ

この池の龍神に
お願いするのだよ

これを池に
浮かべておくれ

妙法蓮華經序品第一

如是我聞 一時仏住…

与大比丘衆
万二千人俱

皆是阿羅漢…

妙法蓮華經藥草喻品第五

爾時世尊

告摩訶迦葉

及諸大弟子
善哉善哉 迦葉

善説如来…



而諸草木

一雨所潤



雖一地所生

而得生長 華果敷実

称其種性

一雲所雨



日蓮さまの
お陰じゃ

その通りだ
ありがたい

恵の雨だ
これで
苦しみから
救われるぞ

我らも
お題目を
唱えようぞ



雨だ！
雨が降って
きた！



南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

つづく

雨乞い

文永8年（1271年）の鎌倉は春から初夏まで大旱魃に見舞われ、水飢饉の状況でした。執権北条時宗は極楽寺の良観に雨乞いの祈祷を依頼します。律宗の僧侶である良観は各地のインフラ整備に尽力し、北条一門の信望を集め、権勢を誇っていました。良観は靈山ヶ崎にて6月18日に祈祷することを公表しました。

日蓮聖人が「七日の間に雨が降れば私は良観の弟子となり、念仏を唱える。もしそうならなければ私の弟子となり、題目を唱えよ」と挑戦状を送ると、良観側も「妙計異議なし」とのことで、人々は両者の対決に注目しました。当日良観は120人の僧侶と共に祈祷を始めますが、七日が過ぎ、さらに七日延長しても雨は降りませんでした。

そこで日蓮聖人は二人の弟子を伴い、お題目を書いた板を極楽寺谷の田辺ヶ池に浮かべ龍神に祈ります。序品第一、方便品第一、譬喩品第三、信解品第四、薬草喩品第五と読経を続ける
と雨が降り始め、三日三晩降り続いたと伝えられています。



田辺ヶ池（靈光寺ホームページより）



お寺の本棚



『妙法蓮華経のお話』

— 御開山上人の実践とその時代




ありがたいお詣り

今から十二、三年前に、杉山先生・村上先生のお供をして伊勢松阪市の小学校へ講演会に行ったことがあります。一晩泊まりまして翌日、「皆さん伊勢神宮にお詣りして来なさい」と言われ、



大変結構と思いました。杉山先生はその時に、「お詣りに行かれることはよろしいが、どう思ってお詣りして来られるか」と問われました。その返事に行き詰まっていますと、

「そんなことではお詣りしても何にもなりません。神さまにでも仏さまにでも、お詣りをする時、何にも思わず頭を下げる人もありません。また欲深く『お金を儲けさせてください。命を長らえさせてください』と、いろいろな祈願をせられる人もありますが、お詣りの意義も知らずに願うだけでは功德になりません。ただ行って来ただけです。神さまでも仏さまでも、お詣りするほどの人は生前に必ず、直接或いは間接に我々に対して教訓を与え、社会の



ために働き、我々の模範となるべき方だから、お祀りされているのです。伊勢大神宮さまにお詣りするのにも意義があります。この日本の国もその昔は葦の原で荒れ果てた土地であって、その国を開拓してくださったご苦労を思う時、本当に今日はありがたいことではありませんか。私どもの先祖としてこの良き国をなお良き国にしてくださったそのご恩、それからそれへと思いを巡らせますなれば、このありがたい国に生まれ、何の不足がありません。本当に大神宮さまのお陰です。『足ることを知って日々の家業に努力し、修養をして徳を積みます』と神前において誓って来なさい。私達日本人は、この日本をより良き国となすべく励み、さらに諸外国をも良き国としてあげねばならぬのです。それが私達に課せられた使命です』とお話しくださいました。

なるほど、神さまも仏さまもお詣りするには、お詣りの意義を知って真に恭しく詣らねばならぬということを知りました。

(村上齋先生著 『杉山前会長の生涯』昭和13年6月25日発行)

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

常寂光土への誘い (18)

無量義經 説法品第二

善男子、我樹王を起つて波羅奈・鹿野園の中に詣つて、阿若拘隣等の五人の為に四諦の法輪を転ぜし時も、亦諸法は本より来空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説き、中間此及び処処に於て、諸の比丘並に衆の菩薩の為に、十二因縁六波羅蜜を弁演し宣説し、亦諸法は本より来空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説き、今復此に於て、大乘無量義經を演説するに、亦諸法は本より来空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説く。

「樹王」とは、お釈迦さまが端坐して覺りを開かれた、ブツダガヤの菩提樹のことを言います。その当時の感慨を語っておられるのです。

人と生まれて、大した事もできず、つまらない人だと思われている人でも、心を入れ替えて修行を積んでいけば「仏の境界」に到れるのに、その事を知らないがために浅はかな生活をしている姿を見て、いかにも気の毒だと思われたのでしょうか。そこで、そういう人々のために、楽しい生活の方法を説き、教えていこうと思われたのです。そうして、教えを説いていかれるのでありますが、その教え方の順序を考えられました。又、多少でも縁のある人から教えを説いていこうとも思われました。

そこで、かつて共に苦行を経験した五人の仲間のために教えを説こうと思ひ立たれました。その五人は波羅奈・鹿野園にいました。その時に説かれたみ教えが「四諦の法」であります。「苦・集・滅・道」と言って、「世の中は苦である。自分達の心は迷いの集まりである。しかし、そういう苦しみや迷いを滅して、安らかな境遇に到達するために、その道を教えてあげよう」と思われたのです。そして「諸法は本より来空寂なり」と説かれました。世の中のあらゆる事・物（諸法）は千差万別で、異なったことがあるけれども、根本から言えば空寂、つまり差別などはなく、一つの大きな力が現われて、いろいろなものに変化していくというのです。

「代謝して住せず」⇨始終変わっていく、一つも同じ状態ではありません。「念念に生滅す」⇨一瞬間毎に生じたり滅したりしていくのです。そういう変わっていくことばかりを考えていたのでは一生が無意味になるといふことを、初めに説かれたのであります。

その後、もう少し考えの進んだ人のために十二因縁・六波羅蜜等を説かれました。その時にも「諸法は本より来空寂なり、代謝して住せず念念に生滅す」の言葉の通り、「修行を積んで程度が進めば、その意味が深くわかっていくのである」と言われました。そして「世間の事は念念に生滅するのであるから、その事だけを考えていたのでは本当の人生の意味はわからないということを感じなさい」と教えられたのであります。

今の私共も、変化する中に、意味のある大切なものを捉えて進まなければなりません。世のため・人々のために働き、善根を積むことをその中で考えていくのです。

善男子、是の故に初説・中説・後説、文辞是れ一なれども而も義別異なり。義異なるが故に衆生の解異なるなり。解異なるが故に得法・得果・得道亦異なるなり。善男子、初め四諦を説いて声聞を求むる人の為にせしかども、而も八億の諸天来下して法を聴いて菩提心を発し、中る処処に於て、甚深の十二因縁を演説して辟支仏を求むる人の為にせしかども、而も無量の衆生、菩提心を発し、或は声聞に住しき。

「善男子よ、そういう訳であるから、初めに説いた事も、中頃説いた事も、今ここで説く事も、その言葉は同じであるけれども内容は異なる。内容に違いがあるから、人々の受け取り方にも違いが生じる。受け取り方に違いがあるため、その教えを聞いて得た覚りも違ってくる。

善男子よ、初め四諦を説いて、声聞を求める人のために『仏の教えを聞いて無常を知り、世の中に捉われない心を養いなさい』と導いたのであるが、その教えによって、天上界の八億という大勢の人も菩提心を起こし、『本当に意義ある生活に入らなければならぬ』と修行をする決心を定めたのである。その後、いろいろな所で教えを説いてきたが、辟支仏（縁覚）の修行をする人のために十二因縁の教えを説いた。その時に聞いた無量の人々も『仏さまと同じ智慧を具えるようになりたい』という菩提心を起こした。中に、世の無常を感じて、世の中の様々な出来事に捉われない心を持つことのできる人々もいたのである」。

ひなた
wish your heart full of happiness.

季刊誌

年4回

1月・4月・7月・10月 発行

発行

いつも喜びを持っていますか
生かされて、生きていく

「人生は長い旅です。目的地は決まっていますが、道は自分で選べます。時には迷いますが、それはそれでいい。大切なことは、旅を楽しむことです。毎日を大切に生きていくことが、幸せの秘訣です。」



目次

- ・大切なこと
- ・言葉のチカラ
- ・きょうの一品
- ・みんなの川柳
- ・ちょっと幸せにな
- ・まちがい探し
- ・お気に入りのアイ

目次

- ・失敗を生かす道
- ・言葉のチカラ
- ・きょうの一品
- ・みんなの川柳
- ・ちょっと幸せにな
- ・まちがい探し
- ・お気に入りのアイ

ひなた

wish your heart full of happiness.

2023 winter

目次

- ・喜んでいきますか？
- ・言葉のチカラ
- ・きょうの一品
- ・みんなの川柳
- ・ちょっと幸せになる話
- ・まちがい探し
- ・お気に入りのアイテム！



縁ある人に
ぜひさし上げてください

ひろば

福祉の



幸せのお手伝い

（踏み出す前の

大切なこと）

喜ばせてもらった日の気づき

現在は事務員として勤務している私ですが、昭徳会へ入職した当初の職種は高齢者施設の介護員でした。福祉とは全く無関係な文学系の学部を出ての就職だったため、周りの方々にサポートしてもらいながらも、いつも胸の片隅に不安を抱えて業務に当たっていたことを、今でもよく覚えています。日々、利用者さんの笑顔を見られることに楽しさを感じつつも、本当にこれで良かったのか」と答えない自問自答を繰り返していました。

た。経験はもちろん、知識も足りないと強く自覚していたがゆえに、自分が福祉人として人を喜ばせることができている」という自信が持てなかったのです。

そんな私の転機となったのが、ある利用者さんからの「子鹿物語って知ってる？」という質問でした。「子鹿物語は昔の愛読書だったが、今は手元がなく、脳の病気をしてから内容の記憶が曖昧になってきた。君が（回想法物品の）古い本を熱心に見ていたので、読書が好きなんだろうと思い、話をしたかった」と声をかけてくださったのです。

幸い私も知っている物語だったので、その場でご要望にお応えできました。初めて不安なく利用者さんと関わることができた上に、福祉人に必要なものは当然、福祉の知識や技術ではあるけれども、決してそれだけではない、どんな知識でも人の喜びのために役立つ可能性がある」と実感し、過度な不安から解放された瞬間でした。真に求めていたものを与えられる喜びは特別なものです。その方は私に「ありがとう」と言ってく下さいましたが、私もまた感謝の気持ちでいっぱいでした。それからは「どうするべきか」にとらわれる前に、「何を求められているのか」をよく考えるようになりました。どんな立場の方との関わりにおいても、相手の希望を確実に汲み取る姿勢は大切です。今は直接支援の現場からは離れて

いますが、どんな職種にも共通する大切なことを、あの日教えていただいたのだと感じています。

泰山寮 グループリーダー 事務員 金崎 由梨



第16回 福祉実践発表会 日本福祉大学で開催



写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭徳会 ～養護老人ホーム高浜安立が最優秀賞を受賞～

令和5年11月12日、今年も「三法人連携」の一環で日本福祉大学・東海キャンパスを会場としてお借りし「第16回福祉実践発表会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことを受け、数年ぶりに会場参加を主とした開催です。昭徳会の職員はもちろん、日本福祉大学の学生さんや大学関係者の方々、総勢100名を超える方を前にして、「高齢分野」7施設の実践発表が行われました。

コロナ禍で特に利用者の安全・安心を守ることに注力し、苦勞を重ねてきた高齢分野ですが、困難な状況の中でも昭徳会の基本理念である「幸福（しあわせ）」の実現に向け、日々取り組んできた内容について発表が行われました。回想法やICT（情報通信技術）導入など施設毎の取り組みに加え、発表者も介護員だけでなく調理員や特定技能介護員など多岐にわたり、バラエティに富んでいました。

全施設の発表終了後に、参加者の投票によって、最も印象に残った施設を選んでもいただきました。どの施設の発表もそれぞれの想いのこもった素晴らしいもの



でしたが、最優秀賞に選ばれたのは、養護老人ホーム高浜安立でした。発表テーマは「『幸せ』を味わうデイサービスの食卓」食を通じてみんなの笑顔を引き出していく」です。外出自粛が続いたことにより減少してしまったデイサービスの利用を回復させ、またカラオケ等の行うことがむずかしくなった活動に代わる楽しみとして力を入れたのが「食」に関する取り組みでした。「懐かしの昭和喫茶メニュー」の企画を考え実施すると、「懐かしいね」「昔、子どもを連れて食へに行ったよ」と昔話に花が咲き、自然と笑顔あふれる時間となったそうです。

他にも人気だった「沖縄料理」の企画は47都道府県のご当地メニューを北上しながら順に味わっていく長期企画として発展し、「全部食べるまで元気でいるぞ」と利用者の日々の生活の目標としても一役買っている

とのことでした。企画を考える職員も楽しみながら前向きに、利用者の方に何ができるかを一丸とって考え、取り組んでいることが伝わってくる発表でした。

参加された内定者の方からは「利用者さんが施設に行きたいと思えるようにするために、職員

も笑顔になるような取り組みをしているのが印象的でした」との声を聞くことができました。これから昭徳会の仲間として働く意欲の向上につながったようです。来年度は「障がい分野」の発表です。どんな取り組みについて発表されるのか、とても楽しみです。



法人本部事務局 事務員（福祉セミナー等実行委員会）

杉山 朋代

付属高校和太鼓部「楽鼓」が県大会優秀賞受賞、全国大会に出場します！

～日本福祉大学付属高等学校～



写真提供・日本福祉大学付属高等学校

11月23日、和太鼓部「楽鼓」は、知立市文化会館で開催された愛知県高等学校総合文化祭郷土芸能専門部県大会に出場しました。出演校17校の最後に登場し、演目「絆」和太鼓組曲『海嶺』より～」を演奏しました。審査の結果、上位2校に該当する優秀賞を受賞。令和6年、岐阜県で開催される全国大会（ぎふ総文）に出場することが決まりました。

県大会の会場は、コロナによる規制がなくなっただけでもあり、客席は満席。和太鼓部のメンバーは多くの保護者や卒業生、教員の応援の中、気持ちのこもったキレのある演奏を披露し、客席から大きな拍手をいただきました。



和太鼓部の全国大会（全国高等学校総合文化祭）出場は、令和6年のぎふ総文で33年連続となります。毎年演奏メンバーが入れ替わる高校の部活動ですが、先輩から後輩へと引き継がれてきた想いを、これからも演奏に乗せて披露していきたいと思えます。

今後とも和太鼓部「楽鼓」への応援をよろしくお願いたします。

日本福祉大学付属高等学校

和太鼓部 顧問

今田 和弘

幸せの種まき

やわらかな心で物事を捉え

ゝありがたいゝ ことを

見つけましょう

同じ物事でも角度を変えれば

善い面と悪い面があります

善い面を見つけることが大切です

大乘山 法音寺

編集後記

私達は年を重ねるに従って時の流れが早くなり、あつという間に一年が経過するように感じるものです。仏さまによって与えられた人生の長さを考える時、「生きていくうちしか徳を積むことができません」という日達上人のお言葉が胸を打ちます。今年の御法推進目標は「悦可衆心」、実行目標は「よい教えを伝えよう」です。私達はこの目標を決して「絵に描いた餅」とせず、日々実行していくことを念頭に生活したいものです。

「教えを伝える」ことを考えると、かなりの覚悟が必要と私達は構えがちですが、山首上人さまは「考え方を変えれば構えずともできる」とおっしゃいます。日々あらゆることに感謝する心が、他者への親切な行動につながっていく、その模範的な姿勢が周囲の信頼を生み、「あの人の言うことなら」と、その信頼感が生活の指針となる教えを伝え易くするとおっしゃるのです。

そう考えると、「ありがたい」ことを感知できるアンテナを磨くことから始める必要があります。そのためにもこの一年、お寺でご法話を聞いて、お互いに精進していきましょう。

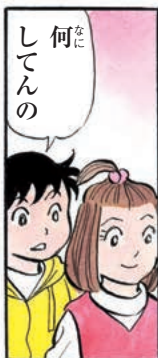


やさことば 優しい言葉

竹中 淳



高杉くん達
新聞係でしょ
その打ち合わせよ



何
してるの



ほんとねえ

あーあ ひどい
投稿ばかり…



新聞の記事に
するの
みんなに投稿して
もらってるだろ



ねえ ふたりとも
聞いてくれよ

どうした
の？

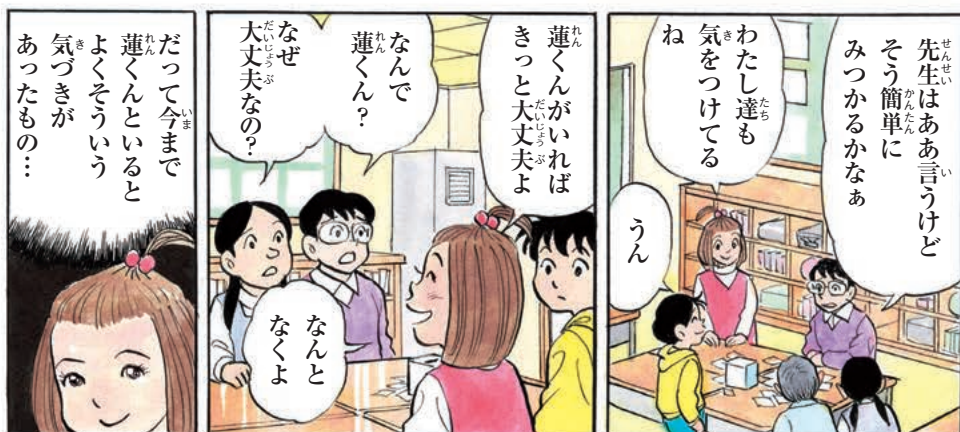
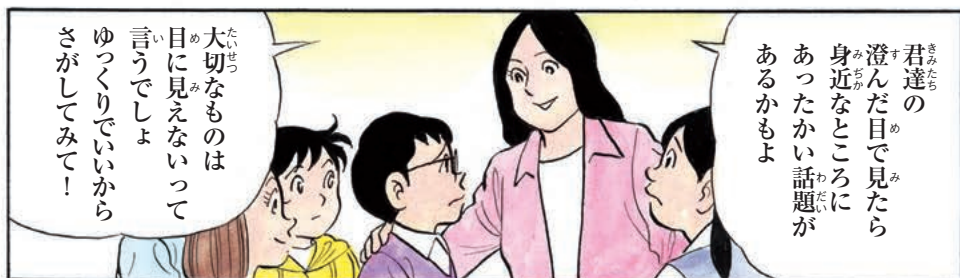


それがね
見てよこの投稿！
だれかの失敗や
悪口ばっかり！

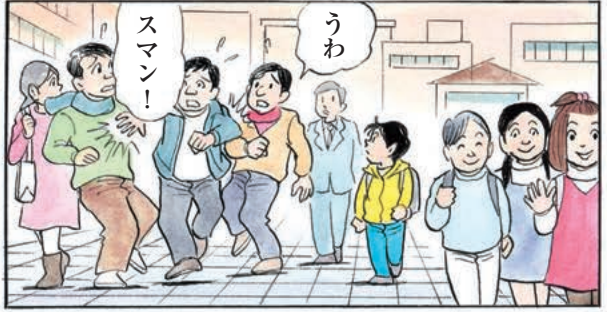
しかも
そんなのに限って
匿名なんだよ
ずるいだろ？

12月10日
Tくん学校
おもしろい
んだってさ
おもしろい
おもしろい

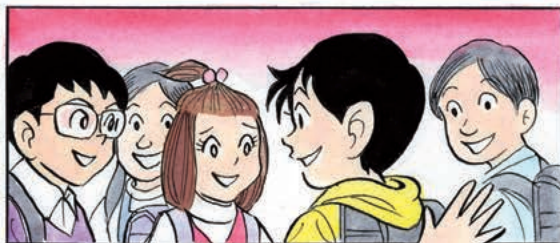
匿名投稿
のしるし
はここ













ねえ みんな
これってボくら
さがしたものに
ならないかな

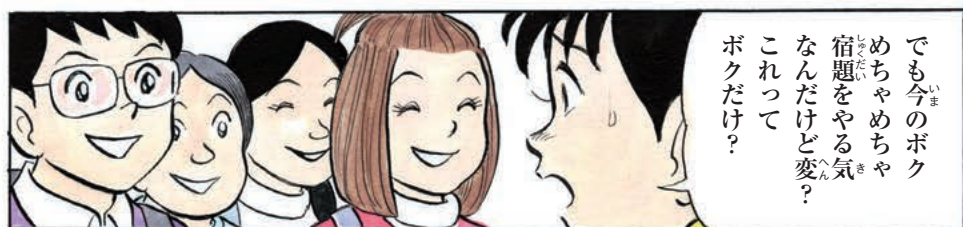
あのお姉さん
まだ手を
振ってるよ



あの人 初めて会った知らない
ティッシュ配りのお姉さんだよ
この塾に入らない？とか
この塾をよろしくねとか
言われるのかと思わなかった？

それが
宿題頑張って
だよ： ボク
グツつと来ちゃった

こんなこと
母さんや先生からイヤと
いうほど言われてきたけど
こんなあったかくて嬉しい
気持ちになったことないのに
何が違うのかなあ



でも今のボク
めっちゃめっちゃ
宿題をやる気
なんだけど変？
これって
ボクだけ？

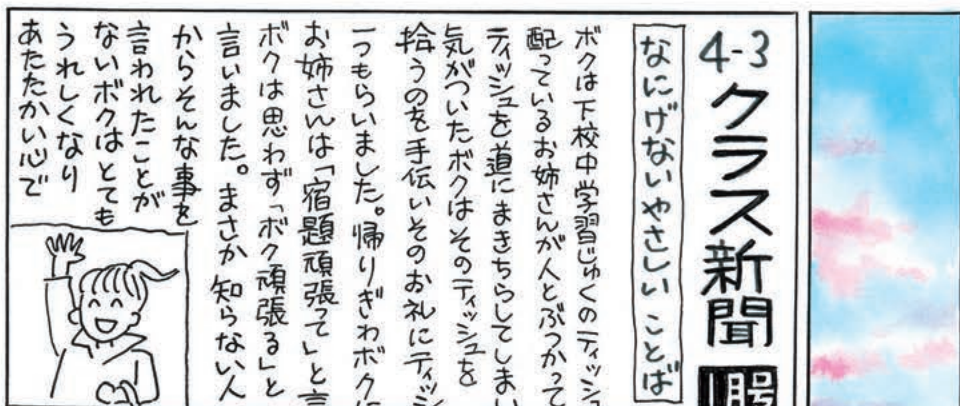
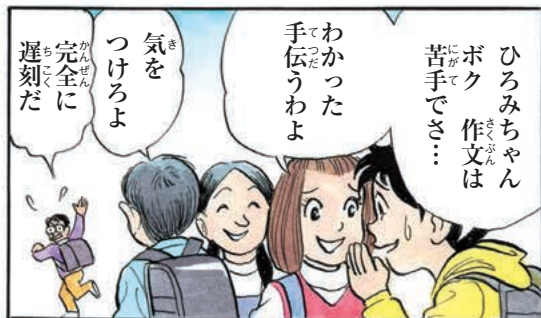


みんなの
顔見たら
わかるでしょ

ここに
全員の
蓮くんと
同じ気持ちよ

お姉さん
いつまでも手を
振ってくれて
かわいかったね

あのお姉さん
先生なのかな
あの塾ちよっと
気になるな



おしまい

令和6年・法音寺年間行事予定表

月	日	曜	行	事	月	日	曜	行	事
1	1	月	新年祝祷会		7	7	日	講	日
	2	火	〃			17	水	講	日
	3	水	〃			21	日	ほうろく加持・虫封じ祈禱	
	7	日	初講日・交通安全祈願会			27	土	講	日
	17	水	講	日		28	日	墓	経
	27	土	講	日(宗玄大徳御祥月命日法要)					
2	4	日	星祭・節分会		8	4	日	孟蘭盆会	
	7	水	講	日		7	水	講	日
	17	土	講	日		17	土	講	日
	25	日	報恩講習会 育成合同会議			24	土	育成行事(～25日)	
	27	火	講	日		27	火	講	日
3	7	木	講	日	9	7	土	講	日(日宣上人御祥月命日法要)
	17	日	講	日		15	日	報恩講習会	
	20	水	春季彼岸会			17	火	講	日(慈泉院殿慈温妙光大姉御祥月命日法要)
	27	水	講	日		22	日	秋季彼岸会	
	31	日	青少年育成道場			27	金	講	日
4	7	日	講	日・釈尊降誕会	10	7	月	講	日
	14	日	報恩講習会			13	日	全山一斉清掃奉仕	
	17	水	講	日		17	木	講	日・御会式
	27	土	講	日		20	日	秋季大黒・鬼子母尊神祭・七五三祈禱会	
	29	月	胎教児証書授与式			27	日	講	日／合祀供養
5	3	金	浄心道場(～5日)		11	3	日	御法推進全国大会	
	7	火	講	日(法泉院殿慈温妙光大姉御祥月命日法要)		7	木	講	日
	17	金	講	日		17	日	講	日
	19	日	御開山会			24	日	報恩講習会	
	27	月	講	日		27	水	講	日
6	2	日	御開山会		12	1	日	本尊授与式・授戒会	
	7	金	講	日(御開山上人御祥月命日法要)		7	土	講	日
	9	日	御開山会			17	火	講	日(日達上人第十三回忌法要)
	17	月	講	日		27	金	講	日
	23	日	報恩講習会			31	火	晦日参り	
27	木	講	日(安立大法尼御祥月命日法要)						

(注) 上記事項の変更、追加、及び団参等については事前にご通知いたします。

悦可衆心



洋ラン

法音寺